

# 👉 堰 堤 を C H E C K ! 👈

堰堤が完成した、大正12年3月のわずか半年後には関東大震災が起こり、煉瓦積み建築の多くは倒壊！以後災害に弱い煉瓦は大型建築で使われなくなったため貴重！



高欄には見た目を重視し市松模様に組まれた透かし積みを採用！

緩やかなアーチ平面と煉瓦積みで丁寧に築かれた取水塔！

粗石コンクリート工法で水圧をダムの高さで支えていた！緩やかなアーチ型で左右の岩盤に水圧を分散！

一定以上溜まった水を吐き出していた余水路を確認！当時の技術者は安全面を重要視していた！

下流側から森の中に現れる堰堤を見上げてみよう！

## 「なぜ作られたのか」

山口市小郡地域（旧小郡町）での近代的上水道は、下関市に次いで県下2番目に整備されました。小郡地域の市街地では飲用に適した水を得難く、不良な水に起因する伝染病の流行が懸念されていました。

桂ヶ谷貯水池堰堤の工事は、上水道敷設の認可を得た後の大正11年（1922）4月に開始され、翌年4月には給水が始まっています。

大正末期から昭和初期には、鉄道交通の発達とともに水の需要が急上昇し、上水道の拡張工事が行われました。このような充実した上水道の獲得により、鉄道の重要拠点となる機関庫が旧小郡駅に移され、町は飛躍的な発展を遂げていくのです。

SL C57-50



稼働時の桂ヶ谷貯水池堰堤



## 「鉄道給水について」

桂ヶ谷貯水池堰堤の上水道システムが稼働し始めた頃、山口線が島根県益田まで全線開通しました。

昭和3年（1928）4月に機関庫で使用された列車の給水は、1カ月で903万4000kℓ（1kℓは1000ℓ）でした。これは、1日あたり約32万3000kℓになります（25mプール約800杯の水量）。

その他、車両の洗車や、従業員の官舎・浴場で使用する水も含めると鉄道運用には大量の水が必要だったことが分かります。



お問合せ先

山口市教育委員会文化財保護課

TEL 083-920-4111 FAX 083-920-4112  
E-mail bunkazai@city.yamaguchi.lg.jp